



佐々木敏議員

質問①

様似町の福祉の現況と

今後の福祉政策について

1 在宅介護について。

①通所サービス及びヘルパーサービスについて。

(1)登録者数及び利用者数について。

②通所サービスは、定員35名、登録者数は要介護者の方が40人、利用者は20人です。

ホームヘルパーサービスは定員はなく、利用者数は8月実績で要介護者32人、要支援者28人です。

(2)定員に対する利用率について。

③通所サービスでは、定員に対し一日平均約20人の利用率は約60%です。

(3)今後の利用者数の増減の試算について。

④今後、介護を必要とする割合の高い75歳以上の高齢者

高齢者数や、85歳以上の高齢者数はそれほど減らないと考えると、利用者数は横ばいと想定しています。

(4)現状課題について。

⑤利用者数の現状に合わせた定員の削減の検討、介護職員不足の対策、ヘルパーさんの病院への付き添いの長時間化等があげられます。

(5)今後のサービスの在り方について。

⑥半日や時間利用体系の設定、機能訓練の取り組み、認知症対応の職員研修等を要望しています。

⑦施設介護について。

(1)直近の施設入所者数、短期入所者数、定員について。

⑧類似ソビラ荘は定員60名で入所者数は入院、新規入所手続等で3名分が一時的に空床になっています。

⑨短期入所は定員16名で8名利用しています。

(2)直近の入所判定会議の開催について。

⑩入所判定会議は3か月に一回開催され、直近では10月20日に開催されています。

(3)入所待機者数について。

⑪介護度3以上の方が8名、要介護度1、2の特例入所対象の方が9名でした。

(4)現状課題について。

⑫経営面では、燃料費高騰、食材等の物価高騰、介護員不足により閉鎖した短期入所介護報酬の減少、感染予防対策のための業務量の増加、介護人材確保のための経費の増加があります。

(5)今後の施設の在り方について。

⑬施設は、介護保険及び高齢者に関わる最後の砦という思いで取り組んでまいりましたが、これからもその思いで行きますが、連携がうまく図られていないところもあり、今後町に対し補助要請の考えがあるとするれば、改善策をしっかりと出していただきたい。

栄町団地建替えについて

①木質バイオマスチップ利用のエネルギーセンター設置について。

①令和元年度から今年度途中までの約5年間の様子似町内各墓地における「墓終」された件数は、町で改葬許可申請として受理した件数は合計で74件です。内訳は、潮見台の様似共同墓地43件、鶴苦共同墓地8件、田代共同

墓地4件、平宇共同墓地7件、冬島共同墓地5件、幌満共同墓地4件、旭共同墓地3件です。

②潮見台の墓地にある、無縁の供養塔やアイヌの方々の「納骨堂」の管理運営について

③現在、管内3町で実施している合葬墓(がっそうぼ)について

①直近約5年で、各地域において「墓終(はかじまい)」された件数について

②潮見台の墓地にある、無縁の供養塔については、昭和の初期からあった納骨塔の老朽化が激しく、様似仏教会からの嘆願により平成2年に町が建立し、以後管理運営を行っています。同じく潮見台の墓地にある、アイヌの方々の納骨堂については、平成元年に過去土葬されていた、アイヌの方々のお骨の安置場所として、アイヌ協会の要請などにより町が建立し、管理はアイヌ協会が行っております。

③管内において昨年度までは、浦河町、新ひだか町、平取町の3町において合葬墓の建設、運営されており、今年度からは新冠町が新たに運営を開始し、現在4町で実施されております。

④無縁の供養塔やアイヌの方々の納骨堂の規則や要綱がないとのことですが、設置の検討はなされますか。

①取り扱いの要綱等は必要と考えております。

②人口減少、少子高齢化によるお墓の維持・管理を含めた継承問題に不安を感じている方が結構多いと思います。

町の9次計画においても、いつやるかは明確には言っておりませんが、町として必要になってくるという考えを示しており、いずれは建設するようになることを頭に入れて検討します。

※合葬墓(がっそうぼ) ↓家族単位ではなく、広く共同に利用する墓。骨壺単位で収納する場合や、骨壺単位でない場合もある。・・・「第9次様似町総合計画」より抜粋

①木質バイオマスチップ利用のエネルギーセンター設置について。

(1)完成が令和9年度になる理由について。

②建替え実施年度については、令和6年度から令和8年度まで2棟4戸ずつ計画し、令和9年度に1棟2戸とエネルギーセンターの設置を計画しています。入居希望者が令和6年度から令和8年度までに入居を希望しているので入居を最優先にしました。

③令和9年になることで本来入居者設置のストープを町費負担で設置になるのでは。

④ストープは、あくまでエネルギーセンターのバックアップとしての設置です。

(2)暖房のみで給湯をしない理由について。

⑤現段階での基本設計は、暖房のみの配管を計画していますが、給湯利用による木質バイオマスチップ利用の有効性やエネルギーセンターの稼働効率性、事業費などを勘案し検討します。

⑥燃料費については、暖房を利用しない期間も含めて、部屋の間取り、エネルギーセンターの稼働及び木質バイオマスチップ利用に係る維持管理費経費などを換算して月々の共益費として定額負担を考えています。

⑦燃料費の試算は、年間11万2千500円と試算しています。

⑧エネルギーセンターの設置が栄町団地だけのためではなく、公民館、役場庁舎等の公共施設や5階建て団地という集約的設置とか、暖房利用の養殖等もあるかと思うが。

⑨色々な意見をいただく中で、木質バイオマスの取り組みについてはご理解いただいていると思いますので、効率的かどうかについては再度検討させていただきます。

⑩補助の関係もありますので、早急に対応したいと思っております。

質問①



水野洋一議員

墓地の管理運営について

①直近約5年で、各地域において「墓終(はかじまい)」された件数について

②潮見台の墓地にある、無縁の供養塔やアイヌの方々の「納骨堂」の管理運営について

③現在、管内3町で実施している合葬墓(がっそうぼ)について

④令和元年度から今年度途中までの約5年間の様子似町内各墓地における「墓終」された件数は、町で改葬許可申請として受理した件数は合計で74件です。内訳は、潮見台の様似共同墓地43件、鶴苦共同墓地8件、田代共同

墓地4件、平宇共同墓地7件、冬島共同墓地5件、幌満共同墓地4件、旭共同墓地3件です。

⑤潮見台の墓地にある、無縁の供養塔については、昭和の初期からあった納骨塔の老朽化が激しく、様似仏教会からの嘆願により平成2年に町が建立し、以後管理運営を行っています。同じく潮見台の墓地にある、アイヌの方々の納骨堂については、平成元年に過去土葬されていた、アイヌの方々のお骨の安置場所として、アイヌ協会の要請などにより町が建立し、管理はアイヌ協会が行っております。

⑥管内において昨年度までは、浦河町、新ひだか町、平取町の3町において合葬墓の建設、運営されており、今年度からは新冠町が新たに運営を開始し、現在4町で実施されております。

⑦無縁の供養塔やアイヌの方々の納骨堂の規則や要綱がないとのことですが、設置の検討はなされますか。

①取り扱いの要綱等は必要と考えております。

②人口減少、少子高齢化によるお墓の維持・管理を含めた継承問題に不安を感じている方が結構多いと思います。

町の9次計画においても、いつやるかは明確には言っておりませんが、町として必要になってくるという考えを示しており、いずれは建設するようになることを頭に入れて検討します。

※合葬墓(がっそうぼ) ↓家族単位ではなく、広く共同に利用する墓。骨壺単位で収納する場合や、骨壺単位でない場合もある。・・・「第9次様似町総合計画」より抜粋



※プライバシー保護のため、写真を加工しております。

